

令和4年2月7日

瀬戸市議会議長 宮園伸一様

瀬戸市

(陳情)ごみ有料化計画の根拠となる分析結果の再検討や計画の見直しのお願い

(陳情の趣旨)

瀬戸市民はモラルが低く尾張旭市や長久手市など近隣の市と比較してごみ減量化に熱心でないため、懲罰的に有料化する事により推進しようといわんばかりの進め方には瀬戸市民の一人として反対です。

充分な調査により近隣の他市と比較して大幅に家庭系ごみが多い理由を明らかにし限り解決には至りません。

(陳情事項)

1. 説明会資料の中の「瀬戸市家庭系ごみ1人1日あたりのごみ排出量(資源物を除く)」に対する疑問への市民に対する充分な説明を要求します。

近隣の尾張旭市や長久手市に比べ大幅に多いのは不自然です。以下の調査を希望します。

- ① 重量バースのデータに問題はないのか
- ② 他市では計上されていないものが計上されているのか
- ③ 市のPRが不十分で市民の意識が低いのか
- ④ 瀬戸市の特殊事情によるものなのか。例として、瀬戸市では尾張旭市や長久手市と比べてコンビニエンスストアの店舗や本数が圧倒的に少なく、アマゾン瀬戸店や西友瀬戸店などは直がなければ行けません。当然週に1回1回開命も買っ込むため食料のロスが多く発生します。一方尾張旭市などはほとんどのスーパーをカバーするよう店舗が設定されており多くの市民の買い物は足っており食料のロスが発生しにくい環境になっています。

瀬戸市における地区別の一人あたりのごみの量が把握できているのであればおおよその推測は可能ではないでしょうか。



## 2. 資料分析の妥当性について

(1) 令和2年度の家庭系ごみの排出量の一部に、コロナ感染の拡大による家庭内での食卓による食料のロスや食料残りの増加により影響が大きいと、説明のないうまみ載せられている。

(2) 直近7年間の推移表において、資源物が年々減少し、一方で家庭系ごみが人口減少にもかかわらず増加している。資源物の分別が年々大きくなること、その分家庭系ごみが増加したかのような印象を与えていますが、実際は消費者の環境に対する意識が高まり、ビンや缶の容器から、紙、プラスチック、ペットボトルなどの容器に入ったものを選択するようになり重量ベースで資源物が減ることで、家庭系ごみが増加する結果となっている。

### (計画への反対理由)

1. 他の市町村の事例を成功例として採用することの妥当性について

#### (1) 神戸市新図書館建設計画

本来商売にありたい利用できない人たちの意見を優先し、聞くべきなのは、図書館来館者にアンケートを実施したため利用できない人の声を反映できなかった。

その結果、庫が足りず利用できないようは立地条件の不足ばかりが候補地となってきた。

#### (2) 名古屋市東山動物園「海洋ゾーン」建設計画

名古屋市におき例があるが、私が知ったのが計画発表後であり、反対するものが遅れて、発表後に凍結されて10年以上経過している。旭山動物園の事例をそのまま東山へ持ってくるという計画であったが、これを名古屋港水族館と競合するような施設を建設しようというのは無謀な計画であり、私の主張が認められた形となった。ちなみに反対は「あり」(というわけではなく)「東山動物園が遠未来全く活用されずおろそかに認知され」は「旭山動物園の系二葉の有効活用を獲得し、その後大きく前進し、来園者数の大幅増加に貢献している。

※ ごみ有料化においても他の市町村の事例を事例の集まりとして神戸市にその事例を導入すべきではない。

3/3

2. 総合計画との整合性について

「住みたい街」は単なるお題目なのか  
あつちの行政サービスか、近隣市町村で最低レベル  
で済むなら、市長地の鞆原川にこれに合わせたのとする。  
「被害者4世」を廃止する前に市長自らが鞆原川の  
カッパを押し出すのが、筋であったと考へる。